



公明党仙台市議団ニュース

公明党仙台市議団  
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7-1  
TEL 022-214-8718 FAX 022-711-3454  
URL: <http://www.sendai-komei.jp>  
Email: [komei@sendai-komei.jp](mailto:komei@sendai-komei.jp)

地下鉄南北線車両基地での抗菌作業の様子



## バス・地下鉄の車両に抗菌コート

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、仙台市交通局では、これまでの混雑時の換気などに加え、新たに市営バス全472両と南北線・東西線地下鉄全144両の車

内に抗ウイルス処置を行っています。これは、佐藤和子議員が「安心して利用できる対策を」との市民のご要望を交通局に訴え実現したものです。

### 抗ウイルス処置 済スツッカー

抗ウイルス処置が済んだ車両については、車内の乗降扉脇に、「抗ウイルス抗菌処置済」のスツッカーが貼付されます。

抗菌処置済  
Antiviral & Antibacterial  
PROTECTED SURFACE  
仙台市交通局

## コロナ禍を超えて



今年の初頭は、2020東京オリンピック開催へのカウントダウンに誰もがワクワクしていた！と思っております◆

「転、新型コロナウイルス感染症が国内でも発生、見渡せば世界中がオリパどこどこでなくなり、地球規模の感染爆発パンデミックとなりました。マスクが欠かせない状況でオンラインでの会議が当たり前になり、人々の仕事ぶりも暮らし向きも変りました◆震災以降「絆」が意識され叫ばれてきましたが、今こそ私たちは地球市民という意識で、誰一人も置き去りにしないと決意し、地域の絆、市民の絆、家族の絆、心の絆をより強く結んでいきたいと思っております。新しい生活様式です。(す)

### 郡市長にコロナ禍を踏まえての 新年度の施策推進を要望



最重要要望として、①コロナ禍を踏まえた災害時の応援計画と避難対策②いじめ、不登校、虐待防止③感染症等防止及び市民の安全に関する条例の制定等を求めました。重点要望として、特定不妊治療や医療費の助成拡充、障がい者の支援策等の拡充を要望しました。

## あなたの身近に〇〇〇

### 不登校支援で みやネットと意見交換



フリースクールで構成される「多様な学びを共につくる・みやネットワーク」(中村みちよ代表、略称・みやネット)と意見交換。学校復帰のみを目標とせず子どもの居場所確保が重要となる、との認識を共有し、行政のサポートを促すことを確認しました。

### 多様な性のあり方を議長に陳情 パートナーシップが認める街に



ラインボー・アドボケイト東北の小浜耕治代表は鈴木議長を訪ね、同性愛者やトランスジェンダーなどの性的マイノリティのお一人のパートナーシップ関係を宣誓し証明する制度の創設を求め陳情しました。新しい生活様式のもと希望を持って暮らせる街となることを願っています。

### わずかな光でも安心して歩けるように 「暗所視支援眼鏡」の購入助成を



10月30日、公明党仙台市議団は宮城県網膜色素変性症協会の皆様とともに、患者のために開発された「暗所視支援眼鏡」の購入費助成を求めて郡市長長く念願の要望書を提出しました。市長からは、「前向きに検討する」との回答がありました。実際に用具を装着していただきました。

# 第3回定例会 各議員が活発に論戦・行動 withコロナへ

仙台市議会第3回定例会では、公明党仙台市議団の各議員が「withコロナ」へ向けて、市民の安心施策を前進させよう」と本会議・決算委員会等に全力で臨みました。ここで、取り組みの一端をご紹介します。

## 東北復興宇宙 ミッションを 市長に橋渡し

国の東日本大震災復興事業に採択されている「東北復興宇宙ミッション」に仙台市が未参加だったことを知った嶋中貴志副議長は、事業参画の橋渡し役を買って出て、定例会期中の9月9日に、国際宇宙ステーションから同事業担当者をお本市に迎えて、郡市長と懇談に同席しました。



## コロナ禍の自死 予防に市長メッ セージ発信求む

鈴木広康議員は、コロナ禍で将来を悲観する声が寄せられていることから、命を守るためLINEや動画サイト「せんだいtube」の活用を提唱。「市長が市民に直接語り掛けて、自殺予防のメッセージをしっかりと送っていただきたい」と迫りました。



仙台市こころの絆センターの自殺防止の相談電話等の案内

## キッチンカーを 活用した災害時 の支援協定求む

災害時の避難所での炊き出し等に関する協定の創設について、鎌田城行議員は、「いつでも、どこでも被災者のもとに温かな食事を提供できる」というキッチンカーの特長と他都市での協定事例を紹介しながら、本市でも機動力を活かした災害協定を結ぶことを提唱しました。



## 互いを尊重し合 える「心のバ リアフリー推進」

障がい者理解の更なる推進を求め小野寺利裕議員は、共生社会の実現に向けて、誰もが同じ人間として社会の中で助け合い生活することの大切さを、児童生徒だけでなく保護者や地域の方も参加できる形で学び合う「心のバリアフリー推進事業」の拡大を訴えました。



## 不登校の子だ ちの支援情報 マップで案内

小田島久美子議員は、不登校の子どもたちの多様な学びを支援するフリースクール等の民間団体と仙台市の連携強化を訴えました。市は「子どもたちへの居場所の確保につながるマップの作成や見学の杜などへの配布等を行っていくと答えました。



## 家族が亡くなっ たときの手続き 一元化コーナー

遺族の手続きを一元化する「お悔やみコーナー」窓口設置とガイドブックの作成について、佐藤和子議員は、実現に向けての検討状況を確認し、「コロナ禍でさらに負担が大きい」と市民から寄せられたお声を聞き、早期に設置するよう強く求めました。



石川県小松市で実施している「お見送り手続きデスク」事業の窓口の様子

## 新たな生活様 式での町内会 活動の指標を

佐々木真由美議員は、自治会・町内会における新しい生活様式に則した今後の活動再開への指標について質問しました。とくに、わかりやすく判断しやすいガイドラインを作成して各町内会へ配布するとともに、障がいをもつ方に配慮した手引き作成等を求めました。



## 大人の救急電 話相談つなが りにくさを解消

コロナ禍のなかで「おとな救急電話相談 #7119」に電話を掛けても繋がらないとの苦情が絶えないことから、佐藤幸雄議員は、回線を早急に増強し対策を図るよう迫りました。早速、11月1日から本番11025への電話回線も2回線増やされました。



## 市内唯一の深沼 海水浴場の再開 へ計画調査急げ

東日本大震災より来年で10年となりますが、仙台市内で唯一の深沼海水浴場が未だ再開できていません。竹中栄雄議員は、駐車場等の環境整備計画や離岸流の調査など、本格再開に向けた課題を早急に洗い出し、明年には海開きができるよう、と強く求めました。



昨年夏、試験的に開かれた若林区荒浜の深沼海水浴場